

もしもつなみが来たら

東部小・4 中村 友乃

「ピロピロリン……ピロピロリン……」

聞きなれない音が家中にひびきわたりました。七月三十日の朝、つなみのけいけいを知らせるアラートがけい帯電話へ通知されたからです。急いで電話で母に連絡をしましたが、全く返事が来ませんでした。家にはわたしと妹だけ、いつ来るか分からないつなみのこわさと、たよりになる父や母がいない心細さの中で、わたしはただ小さい妹を守らなければいけないということで頭がいつばいでした。その後、そばが来てくれて、

「この辺りは、つなみは来ないよ。」

と言ってくれたので、少し安心することができました。

その日の夜、家族で朝のことを話しました。父の会社は、海の近くのので、父はひなんをしたそうです。母が、

「つなみってこわいんだよ。とてもおそろしかったのは、東日本大しんさいのときだね。」

と言っていました。わたしは気になって、その時の動画を見てみました。そこにはつなみといっしょに流されていく、家や車などがうつっていました。わたしは、つなみがこんなにこわいものだと知りませんでした。さらにくわしくしんさいのことを調べてみました。

このしんさいでなくなった人と行方不明者は、合わせて二十万人以上だそうです。その中でも、児童や先生などの学校関係者は、合わせ

て六百人以上がなくなっています。なぜこんなに多くの人がなくなってしまったのかというと、にげおくれたことが理由だったそうです。

次に、つなみの速さはどのくらいなのか、何センチメートルの高さになるとあぶないのか調べてみました。

水深が深くなるほど、波の速度は速くなります。水深が十メートルだと、時速三十六キロメートルで、これは車やオリンピック選手と同じ速さです。五千メートルだと時速八百キロメートルで、ジェット機と同じくらいの速さです。

また、つなみは二十〜三十センチメートルでい度でも、海底から海面までの海水全体が動くため、大きなエネルギーをもつ波となります。大人ならなんとか立てますが、歩くのはむずかしく、子どもや高い者の方は流されてしまいます。高さが五十センチメートルになると、もっと波の力が強くなります。力のある大人でも、立つことがむずかしいです。七十センチメートルをこえると、もうだれも立つことすらできません。さらにつなみがあぶないのは、体がうきやすくなるということです。水の高さが低ければ、足を地面につけてふんばることができますが、波の高さが高いとふんばることができず、そのまま流されてしまいます。

そして、つなみは家やビルもこわしてしまうほどの力があります。木ぞうの家は、高さ二メートルでこわれてしまいます。十六メートルの高さにもなれば、鉄きんでできたビルでさえもすぐにこわれてしまいます。

このようなおそろしいつなみからにげおくれなために、わたしは、どのように行動したらよいか考えてみました。まず、何より先

に考えたのは、ひなんする場所です。わたしの家の周りには、高い建物がありません。また、市民館はありますが古いです。家から学校までは歩いて二十分以上かかるだけでなく、川もあります。また、さい害の時は、この前のように電話がつながらないことも考えられます。

では、どうひなんするのがよいか、家族のみんなと相談しました。そして、次のことを決めました。一つ目、さい害が起こったら、家族で集まる場所は、住んでいる家にする。二つ目、家があぶなくてさらに近くに大人がいないときは、テレビやけい帯電話などで、じょうほうを集めて近くに住んでいるそふぼの家ひなんし、相談すること。三つ目、大人の指じを守って安全な場所にひなんすること、です。

最後に、日ごろからさい害が起きたときにそなえておくよいのを考えてみました。ハンカチ、ティッシュ、飲み物、おかし、大切な物、お金など思いついたものを実さいに集めてみました。そうして作った、自分のさい害用バックは、すぐに持ってひなんができるように、家のげん関に置いておくことにしました。もし、さい害が起こったら、今回決めたひなんの行動を守り、さい害用バックを持って安全にひなんできるようにしたいです。

この夏、初めてつなみのけいかいアラームをけい験してとてもこわくて不安でした。しかし、このアラームのおかげでわたしは、地しんやつなみなどのさい害を自分自身の事として考えることができました。どうひなんするのか、どう行動すればよいかわすれずに生活していきたいです。